

吉野川に関する情報を幅広く発信する広報誌



# Ourよしのがわ

Vol.52

2023年1月号



## 事務所だより

- ・防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策等の工事進捗状況

## 連載

- ・コウノトリ・ツルでつながる阿波の国
- ・吉野川歴史探訪:明治から昭和はじめの構造物  
～その1 別宮川周辺の物流の移り変わり～
- ・吉野川講座:気候変動を踏まえた水災害対策  
～すでに顕在化する気候変動の影響～

## 現場だより

- ・榎瀬樋門改築事業（令和3-4年度 金岡堤防護岸他工事）を推進中  
【吉野川上板出張所】



Ourよしのがわ  
ウェブページ

徳島河川国道事務所屋上から吉野川を望む



## 【連載】P1～

・コウノトリ・ツルでつながる阿波の国: 戎井さんと行く脇町・池田ツアー

プロンプトポタリング協会／阿波池田うだつの家・たばこ資料館／池田ダム

(案内図①、②、③)

・吉野川歴史探訪: 明治から昭和はじめの構造～その1 別宮川周辺の物流の移り変わり～

・吉野川講座: 気候変動を踏まえた水災害対策～すでに顕在化する気候変動の影響～



## 【ミニ情報発信室】P17

## 【事務所だより】P 18 ～

・防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策等の工事進捗状況(R4.12月末現在)



## 【現場だより】P 22 ～

・榎瀬樋門改築事業(令和3-4年度 金岡堤防護岸他工事)を推進中【吉野川上板出張所】

(案内図④)

## 【特集】P 24 ～

・表紙で振り返る「Ourよしのがわ」結果発表



## アソビバ! 【遊VIVA! 吉野川】P 26

・吉野川河口部で焚火を囲んで、チェアリングをしてみました。～



## 【Twitterだより】P 27

## 【吉野川Diary・編集後記】P 28



表紙の写真: 徳島河川国道事務所

## 案内図



吉野川



## コウノトリ・ツルでつながる阿波の国

To the future with the stork and crane

国土交通省では、吉野川流域において、河川整備と環境の調和として、コウノトリやツルの生息環境の保全を行っています。そして、そこに生きる人々がいきいきと暮らせる地域づくりに取り組んでいます。このコーナーでは、地域に輝く人々や旬な話題を紹介しています。

## 戎井さんと行く脇町・池田ツアー



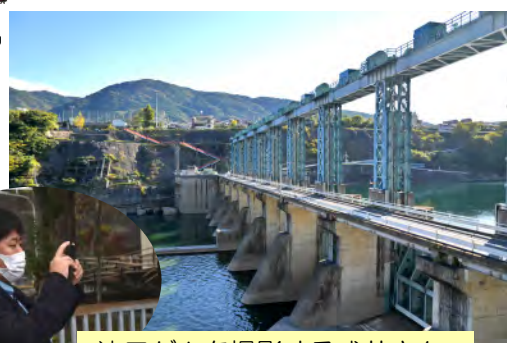
プロンプトンボタリング協会の方の話を熱心に聴く戎井さん



阿波池田うだつの家・たばこ資料館で館長から説明を受ける戎井さん



阿波池田うだつの家・たばこ資料館前にて



池田ダムを撮影する戎井さん

※撮影時のみ、マスクを外しています。

『Ourよしのがわ』51号では、次代を担う若者代表として城東高校2年生の戎井 光来さんと一緒に、吉野川の洪水に関する歴史が学べる脇町・舞中島へ取材にでかけた様子をお伝えし、読者の皆さんから好評を得ました。今後もこのような形で、吉野川の治水や防災、地域の歴史等を学んでいく様子を通して、読者の皆さんにも吉野川を身近に感じながら学んでいただきたいと考えています。

まず、脇町を訪れ、プロンプトンボタリング協会の方に活動の内容や、プロンプトンボタリングツアーの魅力、にし阿波を含めた徳島の魅

力、吉野川や穴吹川、コウノトリの舞う鳴門のツアーの内容などを教えていただきました。

次に、吉野川の舟運と深い関わりのある阿波池田うだつの家・たばこ資料館を見学し、最後に池田ダムを訪れ、ダム管理について説明を受けました。

また、巻末の『吉野川Diary』では、戎井さんの日頃の防災活動について紹介していますので、こちらも合わせてご覧ください。

※取材にあたっては、城東高校の許可を得て、学校の休日を利用し、新型コロナウイルス感染症対策に留意の上、実施しました。

## 多彩なプログラムで日本の魅力を発信するポタリングツアー

ブromptンポタリングとは、ブromptンという、イギリス製の折り畳み自転車に乗って、お散歩するように町をぶらぶらしたり、好きな景色のある場所で写真を撮ったりしながらのんびり楽しむレジャーのことです。

今回は池田ダム周辺を巡るツアーを予定していましたが、取材した日があいにくの雨だったためツアー体験ができなかったものの、ブromptンポタリング協会の方に、これまでの取組やこれからの展開についてじっくりとお話を伺う事ができました。

まず、スライドを使って、今まで行ってきた多彩なツアーのラインナップを紹介していただきました。「緑が美しい神山。ここは、いち早くブromptンポタリングツアーを行っていたところです」「ブromptンポタリング協会の拠点である脇町からの出発だと、吉野川にかかる潜水橋を渡って川中島である舞中島へ行くのもおもしろいですよ」「鳴門ではレンコン田の真ん中を走り、カヌーにブromptンを載せて大谷川を渡ることもあります」「にし阿波だと、列車にブromptンを載せて秘境の祖谷へ行き、温泉に入って祖谷川とかずら橋をめざすツアーが人気です」など、私たちが普段生活している中にもたくさんのツアーの素材がある事を教えていただきました。

また、吉野川には、上流から下流まで47の橋があり、その多様性にも注目しています。例えば、阿波しらさぎ大橋は、干潟の生物や鳥たちに配慮して、橋脚の間隔を場所によって広げたり、ケーブルの本数を減らした工法で作っていることなどを、ツアーで立ち寄った際に説明しているそうです。

最近注目しているのは、水上バスを使ったツアーです。(令和4年は4月から10月に運行)水上バスは、まだ定期運行ではありませんが、吉野川とその支流が育てた三角州の上でできた



スライドを使った説明の様子



ブromptンに興味津々の戎井さん



眺めるだけでも楽しいカラフルなブromptン



鳴門のツアーで出会ったきれいな夕焼け。吉野川が生み出した栄養たっぷりの土壌からおいしいれんこんが生まれます。

徳島市と、その周辺に張り巡らされたように川が流れる『水都とくしま』を観光資源としてPRしようと、現在定期航路の検討がされています。「全国で徳島だけ電車がなくなると言われますが、水路とポタリングの組み合わせで、さまざまな場所へ行くことができます。ここにしかないものをPRすれば良いのでは」と、ありのままの徳島を観光資源として活用することの大切さを教えてくれました。

ツアーのラインナップはウェブページで見ることができます。それぞれのツアーに走行距離、アップダウン、ワクワク感、アクセスの情報などが掲載されているので、自分の目的や好みに合ったツアーを選ぶことができます。

また、ツアーの様子を映像で見ることのできるのも、気になるツアーの下調べとして活用したり、ちょっとした合間に旅行気分を味わう事もできそうです。

これからもプロンプトンで徳島の魅力を発信していきたい、というプロンプトンポタリング協会の活動に注目していきたいと思います。



ひょうたん島水上タクシーと組み合わせたツアーのマップ。阿波十郎兵衛屋敷や長原の渡しなど、歴史や人々の暮らしに触れる体験ができます。

戎井さんコメント

普段私たちの生活に溶け込んでいる吉野川などの自然が、県内外の方はもちろん、国外の方からも注目を集めていることを知り非常にうれしく思いました。私も徳島の魅力を発信できる人になりたいと思います。



一般社団法人  
プロンプトン  
ポタリング協会



プロポタTV

多彩なツアーや、一緒に旅をしてくれるナビゲーター等について詳しく紹介しているウェブページ、ツアーの様子を映像で見ることのできるYoutube『プロポタTV』は、上記QRコードからお入りください。



今回の取材で訪れた池田ダム湖周辺を走るツアーもプロンプトンポタリング協会では展開しています。池田の町中を抜けると雄大な吉野川に沿って、スリリングな吊り橋や潜水橋を渡る、大自然と人口建造物のコントラストが美しい風景を見ることができるツアーです。世界第一級の断層である中央構造線を見ることがもできます。

文中ツアー写真・マップデータ提供  
一般社団法人プロンプトンポタリング協会

## 阿波池田うだつの家・たばこ資料館

三好市はたばこ産業とともに発展してきました。案内してくださったのは館長の助川<sup>すけかわ</sup>克興<sup>かつゆき</sup>さんです。江戸時代から三好市の山間部では葉たばこ栽培が盛んで、幕末から明治にかけて『阿波刻み』という名の刻みたばこ産業で繁栄しました。1904年に煙草<sup>たばこ</sup>専売法が施行され、国の管理になると、翌年には第1号のたばこ製造工場が池田町にでき1990年に工場が閉鎖されるまで、たばこ関連産業で発展しました。阿波池田うだつの家は民営時代にたばこを製造していた旧真鍋家の住宅で、たばこ資料館は作業場だったところです。帳簿や広告、葉たばこ、コンブ切り機をヒントに考案した剪台<sup>せんたい</sup>（かな刻み機）のレプリカ、吉野川を行き来していた平田船の模型や帆など貴重な資料約200点が展示されています。



平田船の1/10サイズの模型とすぐそばには麻袋に入った平田船の帆もありました。

### 戎井さんコメント

池田の町の発展を支えた、たばこ産業の歴史。興隆の面影を残す建物や資料の数々に心を惹かれました。



## 『吉野川のかなめ』池田ダム

戎井さんと最後に訪れたのが池田ダムです。徳島河川国道事務所職員からダムの役割や、令和4年度の『吉野川の出水概要』というパンフレットをもとに洪水時の対応等が説明されました。（ダムの詳細は次ページでも紹介）

池田ダムは吉野川下流から約80kmの地点に位置し、1975年の運用開始から47年目を迎えました。『吉野川のかなめ』ともいわれ、池田ダムから60km上流の早明浦ダムと連携し①大雨による洪水の一部をダムに貯留しダム下流の洪水被害を軽減する『洪水調節』、②ダム下流の既得用水の安定した取水や河川環境の保全を図るための『流量の確保』、③吉野川北岸用水や香川用水の取水を可能にし徳島県、香川県の農業用水、水道用水及び工業用水を共有する『利水供給（取水の確保）』、④ダムから放流される水を利用した『発電』の4つの目的を果たしています。



池田ダムは堤高24mで堤長247mの重力式コンクリートダムです。ダムから放流される水を利用して四国電力（株）が最大5000kwの発電も行っています。

### 戎井さんコメント

人々の生活を支える池田ダム。その壮大さに現代の治水技術の発展を感じるとともに、長年吉野川の治水に携わってきた方々の苦労や想いを感じました。また、同時に、自然への畏怖も忘れてはいけなかった。





## 全国的にも珍しい24時間体制で安定した水を届け四国の産業発展にも貢献している池田ダム

吉野川流域と管轄しているダムの位置図です。国土交通省吉野川ダム統合管理事務所の監督指導により独立行政法人水資源機構池田総合管理所（以下、池田総合管理所）が吉野川中上流域の池田ダム、早明浦ダム、新宮ダム、富郷ダムの管理をしています。柳瀬ダムは国土交通省が管理しています。図面提供：池田総合管理所

「池田ダムは特殊なダムといわれています」と教えてくださったのが三浦さんです。一般的なダムは平常時は水を貯め渇水時に使用する、反対に大雨や台風で川の水が急に増えると水を貯え、少しずつ流して下流地域の安全を守るといった役割を果たしています。

池田ダムは通常時に最低水位87.5mから平常時最高水位88.1mというわずか60cmの間で水位を保ち、香川用水と吉野川北岸用水に絶えず一定量の水を送っています。洪水時に激的に水位が上がったり、水位を極端に下げたりすると取水ができなくなるため最低水位87.5mを絶対に下回らないことが必須です。365日24時間体制で職員が交代で雨量計や吉野川の水水位計を監視し繊細な水量を確保しています。建設されてから47年間、この60cmという水位変動を保ち続けてきたことが三浦さんたちの誇りです。

水が不足しそうな時は早明浦ダムに貯まっている水を補給し、雨が降った時には川にも水が流れ込んでくるため、早明浦ダムに貯めた水を無駄にしないように補給量を減らします。早明浦ダムから池田ダムに水が到達するまでに12時間かかるため、常に半日後以降の水量を考慮した要請量を早明浦ダムに依頼しています。上流には水力発電用施設もあり、発電所を管理する電力会社とも調整しながら早明浦ダムからの補給量が適切かどうか日々確認しています。



池田総合管理所第二管理課課長 三浦博久さん。今までで一番嬉しかったことは住民からの「この川にはダムがあったから洪水被害がなかった。ありがとう」という言葉でした。「この『ありがとう』だけで25年間仕事を続けてこられた」と笑顔で話してくれました。



西日本を中心に記録的な大雨となった『平成30年7月豪雨』で池田ダム放流状況を上空から見た写真。洪水時も一定の範囲で水位を運用しています。（平成30年7月7日撮影） 写真提供：池田総合管理所



池田ダムに併設されている魚道施設(写真左下)。昨年4月から8月末にかけて約22万匹（推定値）の鮎が遡上しました。写真は池田総合管理所ウェブサイト『画像情報』よりダウンロードしたものです。

# 吉野川歴史探訪 ～明治から昭和はじめの構造物～

## ～その1 別宮川周辺の物流の移り変わり～

新年明けましておめでとうございます。別宮川三郎です。昨年は、幸いにして大水害はありませんでしたが、令和2年(2020)から続く新型コロナウイルス感染症、ウクライナ情勢などの影響もあり決して明るいとは言えない状況でした。今年は、水害や渇水など災害がない、そして、かつての日常を取り戻し元気な世の中になってほしいものです。

さて、昭和21年(1946)に昭和南海地震が発生して77年目になります。政府の地震調査委員会は、南海トラフ地震の今後20年以内に発生する確率を「50から60%」を「60%程度」に引き上げました。毎年少しずつ発生する確率が上がっており、私たちは、我がこととして地震や津波への備えを進める必要があります。

吉野川の堤防や河川構造物の地震津波対策は、平成7年(1995)の阪神・淡路大震災を契機として、旧吉野川下流域で着手し現在も堤防の液状化対策等を実施しています。また、吉野川本川においても平成16年(2004)より津波遡上区間において、国管理樋門ゲート操作の自動化・高速化を皮切りに、平成22年(2010)からは樋門本体の耐震化に着手しました。現在は、吉野川大橋左岸上流の榎瀬川樋門の改築工事をしており令和5年度末に完成する見込みです。この榎瀬樋門の完成でもって、吉野川本川の津波遡上区間(第十堰下流)における堤防や国管理樋門の地震津波対策は完了します。

榎瀬樋門は、吉野川第一期改修事業で大正11年(1922)、今から100年前に完成し、洪水防御や舟運路として大きな役割を果たしてきましたが、その役目は2代目の樋門に引き継がれることとなります。今回より明治から昭和初めに造られた別宮川(吉野川)の樋門や橋梁を紹介したいと思いますが、まずは、別宮川における当時の物流について探訪しましょう。

### 1. 流域の社会経済を支えた一大動脈、吉野川

現在の物流は、鉄道や四国縦貫自動車道など陸上輸送に頼っていますが、大正の初めの頃までは、吉野川を利用した舟運が盛んであり、藩政期には上流の池田から徳島、撫養(鳴門)の間は、川舟がひっきりなしに往来していたといわれています。吉野川の本格的改修工事を指導するため、[明治17年\(1884\)に吉野川調査に訪れたヨハネス・デ・レーケは、「吉野川検査復命書」で吉野川の舟運について、「通船路ハ先ツ池田ヨリ幹川ヲ下リ第十村ノ下ニ在ル吉野末流ニ沿ヒ三合ノ地ニ至リ、夫ヨリ榎瀬川ヲ経、別宮川ヲ過キ、而シテ徳島ニ達ス、又タ撫養海峡ニ出ツルニハ三合ノ地ヨリ撫養川ニ至ルナリ」と記しています。](#)

[藩政期から明治の物流は、吉野川を大動脈とした舟運によるもので、阿波の国の玄関口である撫養\(鳴門\)から今の旧吉野川を遡り、内陸部の池田、川口\(山城町\)まで約100kmの間を航行して人や物資を輸送した川舟は、肥料、塩、干魚、ワカメ、雑貨を上流に運び、上流からは藍のすくも、煙草、木炭、薪、板などを運んだのでした。このように、吉野川の舟運が交通の大動脈として果たした役割は大きかったです。](#)

(写真1)

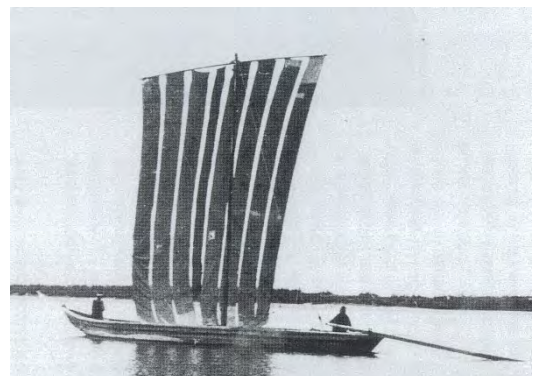


写真1. 八反帆に吉野川の風をはらんで航行する平田船 昭和初期頃



## 2. 明治・大正期の吉野川下流の物流、川から陸へ

吉野川の舟運は、明治中期(明治30年代)が最盛期でしたが、物流の動脈は大正、昭和に川から陸へ移り衰退していきます。当時の状況を探訪しましょう。

### (1) 徳島の玄関口、津田港から古川港へ

藩政期の阿波の玄関は撫養(鳴門)でしたが、藩政末期の頃から新町川の河口右岸にある津田港が商港、漁港として活況を呈し、明治14年(1881)の徳島統計書によれば津田港の東西は約91m、南北約255m、深さ15mで商船の出入は1500隻と記録されており、主に大阪を移出港として栄えました。しかし、新町川河口の土砂堆積によって、別宮川の古川港に船を移すことになり衰退してきます。

古川港は、別宮川(吉野川)の右岸、河口から4km上流(現在の吉野川橋)の上助任村大坪にありました。(図1, 2)明治9年(1876)に下八万村法花の一宮辰蔵・笠井豊作が汽船を建造して本港に本籍をおいて徳島・大阪間に就航させました。その後、古川港を船籍とする船が増加し、明治17年(1884)には関西以西の汽船会社を合併して設立した大阪商船会社が創業を開始し徳島・大阪間の輸送にあたりました。また、大阪商船に対抗して阿波国共同汽船会社が明治20年(1887)に設立されると、ここを港として使用し2社の激しい貨客争奪戦が展開されました。

しかし、上助任村大坪にある古川港は、徳島市街地の中心から離れて交通が不便であり、別宮川の川筋が土砂の堆積で変わりやすいために、明治26年(1893)に大阪商船は、市街地に近い福島港に船着場を移し、阿波国共同汽船も大阪商船に対抗するため明治28年(1895)に福島港に移りました。これによって古川港は約20年でその役割を終え、明治40年(1907)から始まった吉野川第一期改修工事により水没することになりました。

### (2) 撫養航路 ～巡航船就航～

吉野川下流域では、池田、川口への航路の他に四国の玄関口として栄えた撫養(鳴門)から徳島まで、木造の和船を使った航路が藩政時代から利用されていました。

その後、明治25年(1892)には、阿波巡航船株式会社が撫養・徳島間に発動機船を就航させ、撫養川の文明橋東詰から吉野川(旧吉



図1. 徳島市内物流イメージ図  
【吉野川測量平面図(作成推定年: 明治30年代前半)に筆者加筆】

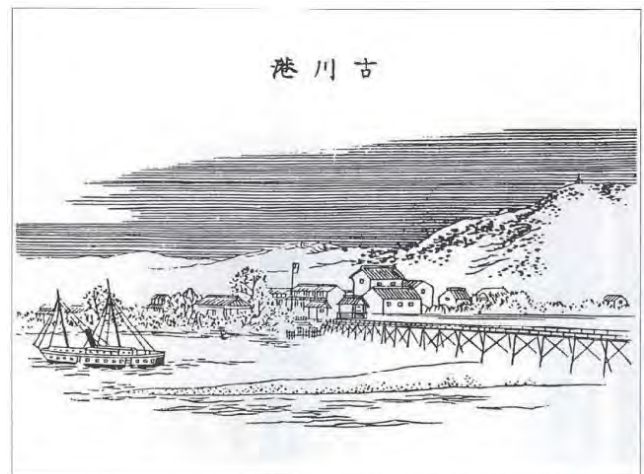


図2. デ・レーケ 吉野川検査復命書  
巻頭付図 古川港

野川)、鍋川、今切川、榎瀬川、別宮川(吉野川)を経て新町川の新町橋まで撫養航路として運航しました。(図3)

航路は、荷物と人を運ぶ交通手段として広く定着し重要な交通・輸送の役割を果たしました。明治25年(1892)は1日1便でしたが、明治37年(1904)には1日3便となり昭和初期まで栄え、一般に早船と呼ばれ“早”印を使っていました。船は5~6トン、10人乗りで片道約4時間でした。このように賑わった撫養航路でしたが、その座を徐々に鉄道や道路に奪われ衰退の一途を辿り、約50年の歴史に幕を下ろしました。



図3. 撫養航路イメージ図【吉野川全図  
(作成推定年：明治17年(1884)～  
明治20年(1887)に筆者加筆】

**【参考：復活した撫養航路】**

平成19年(2007)11月に「NPO 法人新町川を守る会」により歴史的な撫養航路をめぐる遊覧船が復活しました。

船上からの景色は、自然の美しさはもちろん、水鳥を身近で見られたり、河口堰の閘門を通過したり、橋の下をくぐり抜けたり、日常では目にすることのできない風景を体感できます。また、水辺周辺では四季折々のイベントや撫養・淡路街道の歴史的まちなみなどたくさんの見所があります。海辺を走るサイクリングロードも充実しているので水辺と陸路、異なる視点から楽しむことができます。

**(3) 淡路街道 ～渡船から木橋、そして東洋一の橋梁へ～**

淡路街道は、徳島城の鷲の門から商業港として繁栄していた撫養岡崎渡しに至る約16kmの街道で、岡崎からは船で淡路島福良に到着しました。藩政期には道中には渡し場として、古川渡し、鯛浜渡し、馬詰渡し、林崎渡しがあったとされています。別宮川の淡路街道の交通は古川渡しでしたが、木橋の賃取橋である「古川橋」(図4, 写真2)が架設され、明治19年(1886)から豊川仲太郎が賃取橋として経営しました。

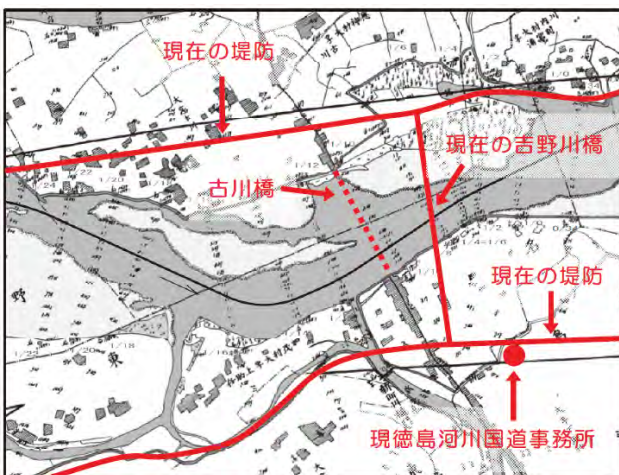


図4. 古川橋周辺平面図  
(明治34年(1901)平面図に筆者加筆)



写真2. 古川橋 (大正7年(1918)頃)

当時は、隣接する古川港に大阪航路の船が就航して賑わいを見せていた頃でもありました。古川橋は南岸の上助任側が滞筋となっていたため橋脚を立てることができず、船を15隻ほど並べ橋脚に代えた浮橋になっていました。全長が720mもあり当初の幅員は1.8mほどで、後に3.6mになったとされています。(写真3)



写真3. 淡路街道北岸から南岸の現在の風景。正面に新町樋門が見える。この付近に古川橋があり、南岸に古川港があったと推定

古川橋は、古川村と上助任村を結び交通の便が向上し利用者から非常に重宝されたようですが、洪水の度に流されるので、橋材の回収、橋の補修など年中行事となっていました。

渡河賃は、大正11年(1922)5月には一人4銭、自転車5銭、人力車8銭、牛馬8銭だったとされています。古川橋は大正13年(1924)に徳島県が経営権を買収し県営に移管となりました。その後、昭和3年(1928)に、当時東洋一の橋梁と言われた吉野川橋が架橋され役目を終えました。

#### (4) 鉄道開設 ～撫養駅から古川駅新設、徳島までは巡航船で連絡～

明治時代に入り、政府は官営による鉄道建設を決定し、明治5年(1872)に新橋～横浜間で開業しました。徳島県では、徳島市から池田間の吉野川南岸地域に重点を置き、明治32年(1899)に徳島～鴨島間の鉄道が開通し大正3年(1914)には池田まで延長されました。

吉野川北岸地域は遅れていましたが、明治44年(1911)に阿波電気軌道株式会社が、徳島～撫養間約14.6kmの軌道敷設を請願し、大正5年(1916)に撫養～古川間13.9kmの鉄道を開業しました。しかし、古川～徳島間は鉄道の整備が困難な状況になったため、古川駅の一駅手前の中原駅で巡航船(写真4)に乗り換えて、別宮川を渡り新町川に入って、徳島市内の新町橋までを連絡輸送しました。(図1)開通時1日8往復、所要時間は撫養と古川間を45分、中原と富田橋を45分であったとされています。

その後、昭和10年(1935)には、中原駅から1km余り上流に吉野川橋梁を架橋するなど、高松と徳島を結び高徳線が全線開通し利便性が高まりました。一方、行き止まりとなる中原駅、古川駅(写真5)は同年に廃止となりました。



写真4. 阿波電気軌道株式会社の巡航船 大麻丸(中原～新町橋)(徳島県立文書館提供)



写真5. 古川駅 昭和5年(1930) (徳島市史第三巻)

吉野川の国による河川改修工事の始まりは、明治18年(1885)に舟運を目的とした低水路整備に始まりましたが、その後、探訪したとおり、物流は、吉野川や別宮川を動脈とした舟運から、鉄道や道路(橋)に移り変わります。吉野川下流域の現在の姿を決定づけた吉野川第一期改修工事は、準備期間を含めて明治30年代から昭和2年(1927)の物流の大変革期に行われました。次号は、大堤防の築造を契機として、大正から昭和のはじめに建設した新町樋門、榎瀬樋門、吉野川橋、吉野川橋梁(国鉄)などについて探訪しましょう。



# 吉野川講座 「気候変動を踏まえた水災害対策」

～既に顕在化する気候変動の影響～

近年、毎年のように全国各地で大規模な水災害が頻発し、それらの水災害にはすでに気候変動が影響を及ぼしているとされています。今後ますます気候変動によって激甚化・頻発化すると予想される水災害に対応するために、河川行政においても、これまでの取組をさらに一歩前に進める必要が生じています。

吉野川講座では、Vol.50 から河川行政における新しい取組や、その考え方についてお伝えしていくシリーズをスタートしました。2回目となる今回は、近年発生した大規模な水災害に、実際に気候変更がもたらした影響についてご紹介します。



## 「吉野川講座」の新たな取組



「吉野川講座」を読者の皆様に分かりやすくお届けするための取組として、徳島大学環境防災センターにご協力いただき、学生を対象とした講座を実施することになりました。

読者代表として、学生の皆さんに直接「吉野川講座」を受講していただき、その中で出てきた質問などを踏まえ、記事作成を行っていきたく考えています。

令和4年12月5日（月）に実施した第1回目の講座には、4名の学生が参加し、気候変動に関する事から吉野川の氾濫特性に関する事等について、幅広く学びました。



令和4年12月5日に実施した吉野川講座の様子

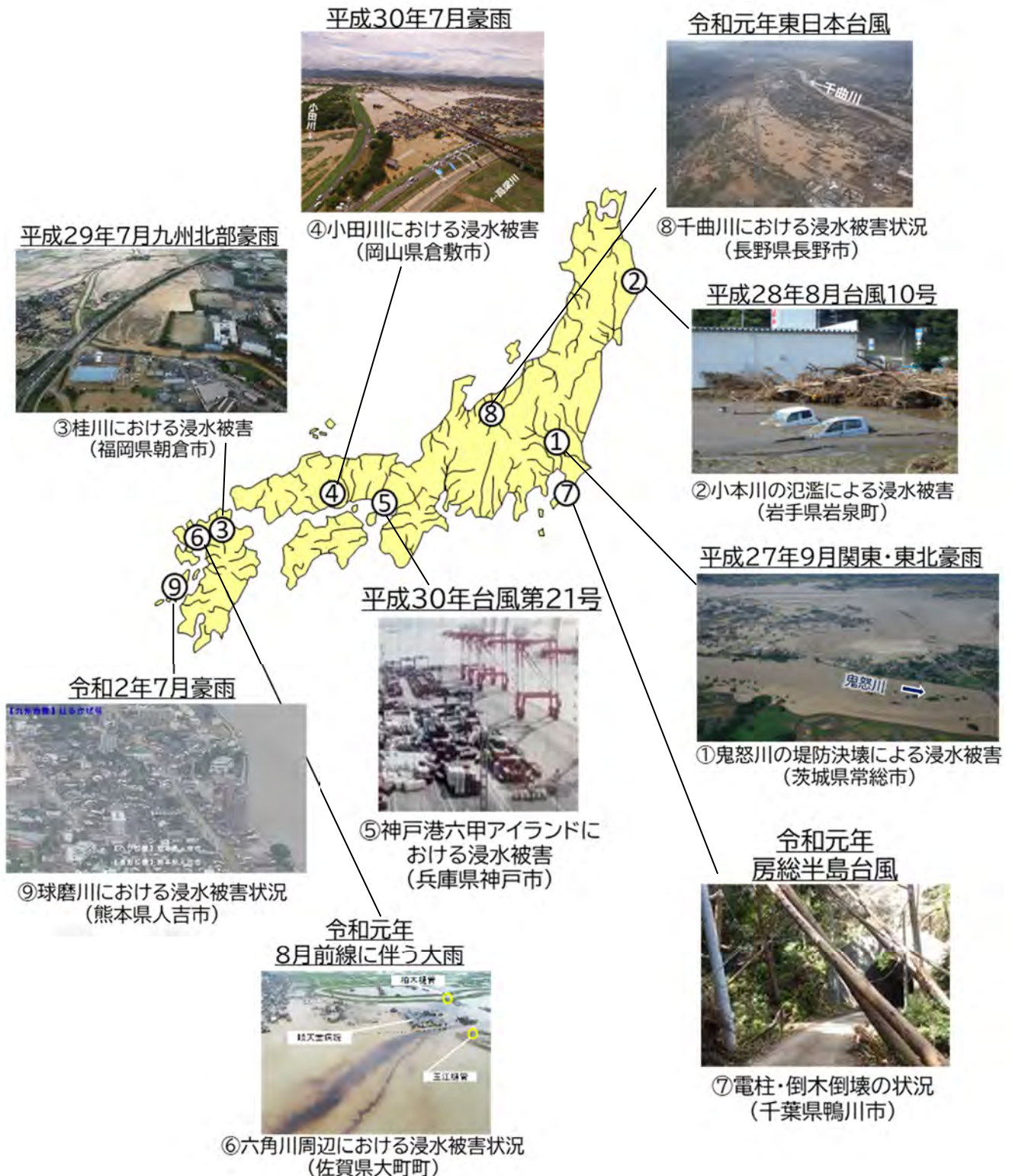


Vol.50では、気候変動とはどういうものなのか、今後、自然水災害にどのような影響与える恐れがあるのか等についてご紹介しましたが、実はすでに気候変動の影響が出ているという報告もあります。

今回は、近年発生した水災害が気候変動の影響をどのように受けているのかについて、具体的に見ていくことにしましょう。

まずは、近年発生した主な水災害を確認しておきましょう。

## 1. 毎年のように全国各地で発生する自然水災害



## 2. 洪水による大規模な被害をもたらした近年の水災害

### ■平成30年7月豪雨

#### ① 気象の特徴

- 6月28日以降、梅雨前線が日本付近に停滞し、また29日には台風第7号が南海上に発生・北上して日本付近に暖かく非常に湿った空気が供給され続け、台風第7号や梅雨前線の影響によって大雨となりやすい状況が続きました。
- このため、西日本を中心に全国的に広い範囲で記録的な大雨となり、6月28日～7月8日までの総降水量が四国地方で1,800mm、東海地方で1,200mm、九州北部地方で900mm、近畿地方で600mm、中国地方で500mmを超えるところがあるなど、7月の月降水量が平年値の4倍となる大雨となったところがありました。
- 特に長時間の降水量について、多くの観測地点で観測史上1位を更新し、24時間降水量は76地点、48時間降水量は124地点、72時間降雨量は122地点で観測史上1位を更新しました。

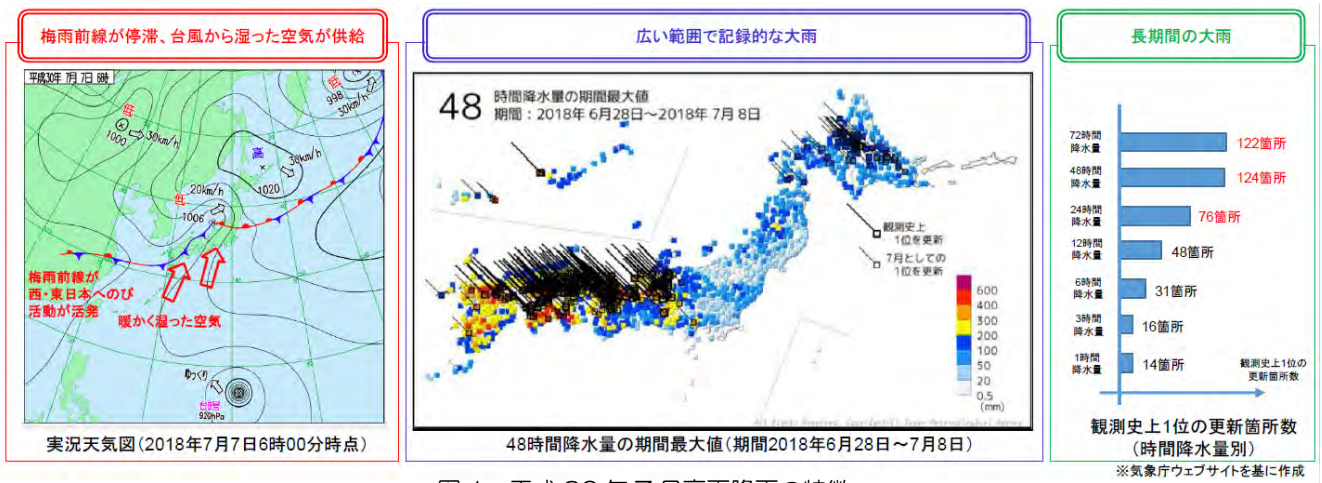


図 1. 平成 30 年 7 月豪雨降雨の特徴

#### ② 被害の概要

死者数	223 名
行方不明者数	8 名
河川の決壊数	37 箇所
氾濫危険水位超過河川	26 水系 50 河川 (国管理) うち 23 水系 46 河川は西日本に集中
家屋の全半壊等	20,663 棟
家屋浸水	29,766 棟 (内水被害を含む)
土砂災害	2,512 件
ライフライン等被害	断水：最大 262,322 戸
	工場被害や主要道路の通行止めにより多くの工場で操業停止が発生



写真 1. 愛媛県大洲市の浸水状況



写真 2. 高速道路の土砂崩れ  
高知自動車道大豊 IC～新宮 IC (上り) (高知県大豊町)

### ③イベント・アトリビューション

気象庁気象研究所では、地球温暖化と豪雨の関係について、温暖化による気温の長期的な上昇傾向とともに大気中の水蒸気量も長期的に増加傾向にあることや、**気温が1度上昇すると水蒸気量が7%程度増加**することなどから、気温の上昇が平成30年7月豪雨に与えた影響を定量的に評価しました。

イベント・アトリビューションの量的評価手法を用いて、近年の気温上昇を引いた感度実験との差により、**平成30年7月豪雨の陸域の総降水量は、温暖化の影響により約6.5%増加した**と試算されました。

#### イベント・アトリビューション (Event Attribution<sup>※1</sup>) とは

気候システムに対する外力は、太陽活動や火山噴火などの自然強制と、人間活動に起因する大気中の温室効果気体やエアロゾル<sup>※2</sup>の変化等の人為強制に分けることができます。観測データから気候の変動を同定し、それに対する人為強制の影響を定量的に評価 (アトリビューション) する試みは、Detection and Attribution (D&A) と呼ばれ、地球温暖化研究の中で一定の割合を占めています。

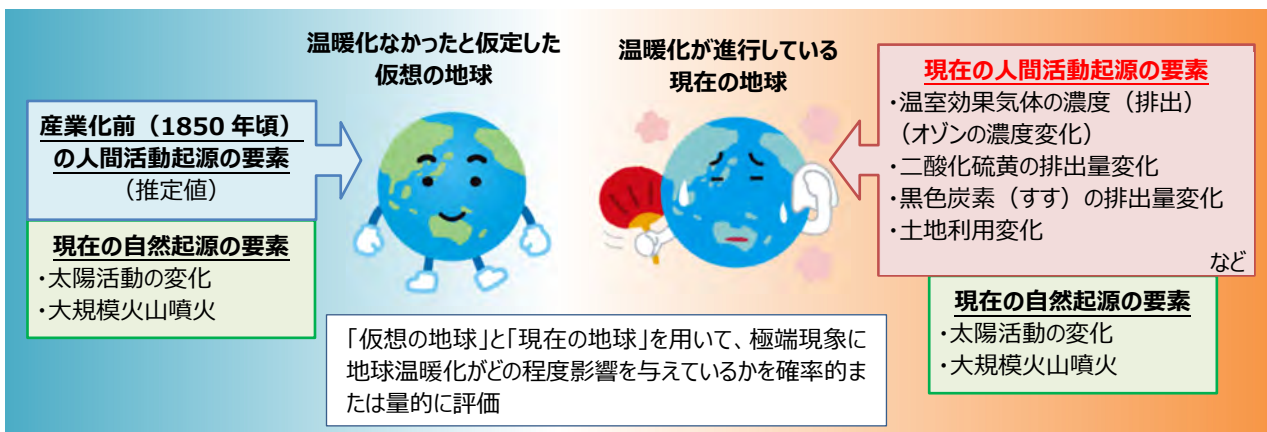
これに対して、**ある年に起きた特定の異常天候や極端現象<sup>※3</sup>などの地域的气象イベントに関して人間活動の影響を評価する試み**が Event Attribution (EA) と呼ばれるものです。

(出典：日本気象学会「新用語解説」2013)

猛暑や豪雨などの個々の極端現象に対する地球温暖化の寄与を調べるために、2種類のイベント・アトリビューション手法が提案されています。

一つは、**気候モデル<sup>※4</sup>による大量の数値シミュレーション結果を利用し、過去に発生した猛暑や豪雨等の極端現象と似たパターンの発生確率の変化に注目する手法 (確率的評価手法)** です。

これに対して、**数値シミュレーションを用いて実際の極端現象を忠実に再現した上で、地球温暖化に伴う気温上昇分を除去したシミュレーションをさらに行うことで、その影響を量的に評価する手法 (量的評価手法)** があります。



(出典：気象研究所報道資料「近年の気温上昇が令和元年東日本台風の大雨に与えた影響」)

#### 《用語解説》

- ※1：Attribution・・・「～に帰する」「～のせいにする」の意味
- ※2：エアロゾル (エーロゾル)・・・気体中に浮遊する微小な液体または固体の粒子と周囲の気体の混合体
- ※3：極端現象・・・極端な高温/低温や強い雨など、特定の指標を超える現象
- ※4：気候モデル・・・物理学の法則を基にコンピュータで地球の「気候」を再現するプログラム



地球温暖化は、確実に水災害に影響をもたらしていることが分かりました。

## ■令和元年東日本台風（台風第19号）

### ① 気象の特徴

- 10月6日に南鳥島近海で発生した台風第19号は、12日19時前に大型で強い勢力で伊豆半島に上陸。その後、関東地方を通過し、13日12時に日本の東で温帯低気圧に変わりました。
- 台風第19号の接近・通過に伴い、広い範囲で大雨、暴風、高波、高潮となりました。
- 雨については、10日から13日までの総降水量が、神奈川県箱根で1,000ミリに達し、東日本を中心に17地点で500ミリを超えました。特に静岡県や新潟県、関東甲信地方、東北地方の多くの地点で3、6、12、24時間降水量の観測史上1位の値を更新するなど記録的な大雨となりました。
- 降水量は、6時間降水量は89地点、12時間降水量は120地点、24時間降水量は103地点、48時間降水量は72地点で観測史上1位を更新しました。
- 主な国管理河川における基準地点上流域平均雨量は、河川整備基本方針の対象雨量を超過又は迫る雨量となりました。

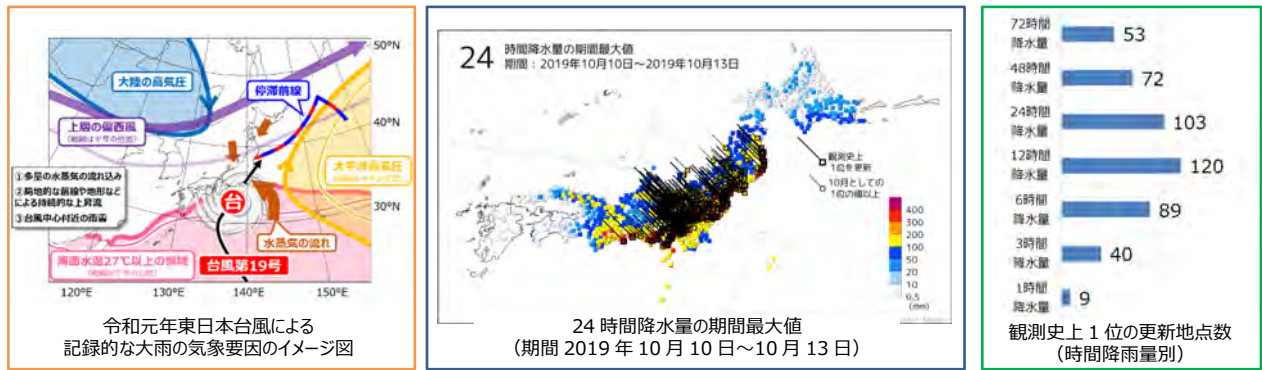


図3. 令和元年東日本台風の特徴

### ② 被害の概要

- 主な河川における基準地点上流域平均雨量は、河川整備基本方針の対象雨量を超過又は迫る雨量となりました。流量も、観測史上最大又は2位を記録し、河川整備計画の目標を超過又は迫る流量となりました。
- 国河川の阿武隈川水系阿武隈川、鳴瀬川水系吉田川、信濃川水系千曲川、久慈川水系久慈川、那珂川水系那珂川、荒川水系越辺川・都幾川では堤防が決壊しました。
- 阿武隈川では、基本方針の流量を超過しました。

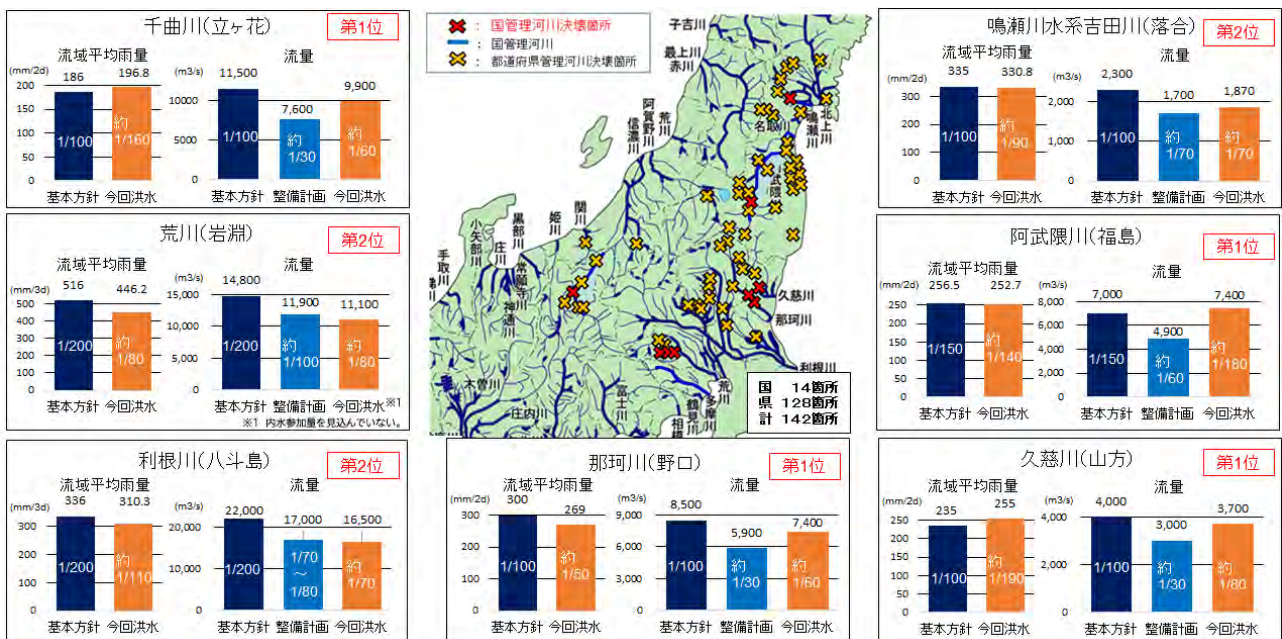


図4. 令和元年東日本台風による国管理河川の状況

\*数値は、速報値（R2.1時点）であり、今後変更となる場合がある。

\*雨量は、対象降雨の継続時間の基準地点上流域の平均雨量。

\*流量は、ダム・汜濫区し。また、「基本方針」は基本高水のピーク流量、「整備計画」は整備計画目標流量。





令和元年東日本台風の規模を示す中で出てくる「河川整備基本方針の対象雨量」とは何ですか

まず、現在吉野川で実施している築堤等の河川工事は河川整備計画に則って実施されているのですが、この河川整備計画は、長期的な河川整備の最終目標である河川整備基本方針に沿って定められているものです。

河川整備基本方針に定める洪水の防御または軽減に関する目標の多くは、各河川毎の目標とする基準地点上流域の降雨量（対象雨量）によって算出される流量（基本高水等）から定められています。吉野川の場合の対象雨量は、基準地点岩津上流の流域平均で440mm/2day、基本高水のピーク流量は岩津地点において24,000m<sup>3</sup>/sです。

「基本方針の対象雨量」とは、この河川整備基本方針に定める流量の算出のもととなる流域平均降雨量のことを指しています。

河川整備基本方針と河川整備計画については、改めて詳しく解説する機会を設けたいと思います。関連記事はVol.38の「吉野川講座」に掲載しています。



Vol.38「吉野川講座」



死者数	96名
行方不明者数	1名
河川の決壊数	国管理河川 14箇所 県管理河川 128箇所
氾濫危険水位超過河川	13水系 40河川
家屋の全半壊等	14,197棟
家屋浸水	59,038棟（内水被害を含む）
土砂災害	953件
ライフライン等被害	信濃川系千曲川の決壊により、北陸新幹線の車両基地が浸水 タワーマンションの一部で電源設備が浸水したことにより、一週間以上電気や水道が途絶えた

P14、15の典拠：国土交通省「第1回 気候変動を踏まえた水災害対策検討小委員会 配付資料6」



写真3. 阿武隈川系阿武隈川（福島県須賀川市ほか）



写真4. 上田電鉄別所線（千曲川橋梁）



「内水」というのはどういう状態のことを言うのですか？

堤防で守っているのは、本川（吉野川）の氾濫です。本川に繋がっている規模の小さな「支川・排水路」は、普段は排水門を通して本川に排出されるのですが、大雨による洪水で本川の水位が高くなった場合は、本川の水が逆流するのを防止するため、排水門を閉めるため、本川に排出されなくなります。これにより支川が氾濫することを「内水氾濫」と言います。

Vol.40の「吉野川講座」、Vol.47～49の「吉野川歴史探訪」の中で詳しく解説しているので、参考にしてみてくださいね。



Vol.40  
「吉野川講座」



Vol.47



Vol.48



Vol.49

「吉野川歴史探訪」



### ③イベント・アトリビューション

人為起源の温室効果ガス排出の増加等に伴う気温及び海面水温の上昇が、令和元年東日本台風（台風第19号）に伴う関東甲信地方での大雨にどの程度影響を与えたのかについて、気象庁気象研究所が評価しました。

その結果、1980年以降、また、工業化以降（1850年）の気温及び海面水温の上昇が、**総降水量のそれぞれ約11%、約14%の増加に寄与したと見積もりました。**

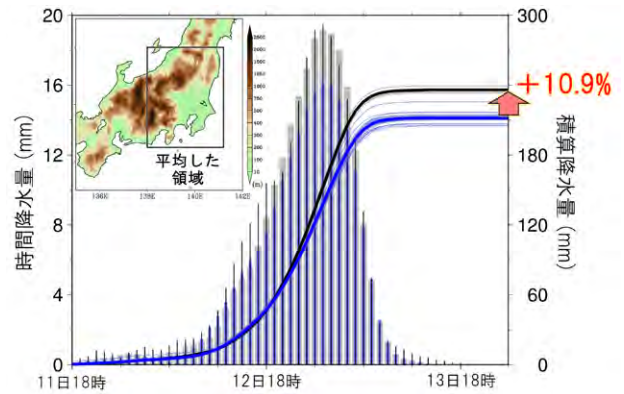


図6. 1時間降水量と積算降水量の時系列

関東甲信及び周辺地域（左上の枠内）で平均した降水量の時系列。棒グラフは1時間降水量、曲線は積算降水量。灰色棒と黒線が再現実験の結果。青棒と青線が1980年以降の気温上昇除去実験の結果。細棒は解析雨量。再現実験と気温上昇除去実験は上陸時間が、実際の上陸時刻より約5時間遅れているため、観測のピークをモデルのピークに合わせてずらしている。

イベント・アトリビューションにより、漠然と感じている地球温暖化が異常気象に与える影響を数字で示すことが可能になりました。



イベント・アトリビューションの数値が、平成30年7月豪雨で約6.5%、令和元年東日本台風で約11%、約14%と異なるのは、何かの要因があるのですか？

気候変動の影響量は、日本全体一律で同じではありません。シミュレーションの対象とするイベントの発生エリアや地形、季節などによっても異なると考えられます。ただ、これらの結果から、確実に気候変動が水災害に影響を与えているという認識を持つておくことが大切です。



今回の吉野川講座では、気候変動が近年発生した大規模な水災害に影響を与えているという事についてご紹介しましたが、いかがでしたか。

このように頻発化・激甚化する水災害に対応するために、国土交通省では気候変動を踏まえた総合的かつ多層的な水災害対策「流域治水」を推進しています。

次回は、この「流域治水」について一緒に学んでいきましょう。

大学の講義では聞けなかったお話や用語などの解説をしていただき、とても勉強になりました。特に、内水氾濫の概念を今回の講座でより深く学ぶことができました。



旧吉野川・今切川を水上から視察しました

徳島河川国道事務所では、観光コンテンツ等との調和を図る河川整備の枠組みづくりを進めていることから、水上から旧吉野川・今切川の景観を視察しました。

コースは、両国のひょうたん島クルーズ乗船上から出発し、宮島樋門から今切川へ入り旧吉野川上流をめぐるもので、いくつもの樋門や橋の下をくぐりながら「水都とくしま」の魅力を肌で感じました。

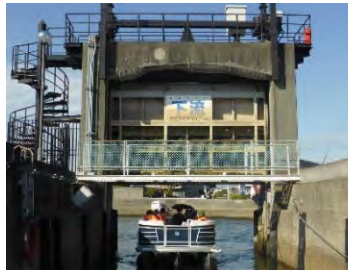
普段と違う目線で見えてきた新たな発見を踏まえて、今後の河川整備を進めてまいります。



今回視察したコース（赤点線）

← 行き      → 帰り

徳島河川国道事務所公式Twitterでは、視察の様子を動画でご覧いただく事ができます。



広島県からやってきた中学生が吉野川について学びました

令和4年12月7日（水）に地元の河川・江の川について学んでいる広島県三次市立塩町中学校の2年生が徳島を訪れ、吉野川について学びました。

今回の勉強会では、徳島を代表する川である吉野川を知ってもらうために、吉野川の概要について以下の項目に分けて幅広く紹介しました。

1. 吉野川の概要
2. 吉野川の歴史
3. 先人達の知恵
4. 近年の洪水
5. 吉野川で取り組んでいる治水対策

生徒たちは、メモを取りながら熱心に説明を聴き、

- ・吉野川の水をきれいにするためにどのような取り組みをしているのですか
- ・江の川では鵜飼いを活用した地域おこしをしていますが、吉野川ではどのような地域おこしをしているのですか
- ・吉野川の水は生活にどのように活用されているのですか

等、これまで学習してきたことを踏まえた質問を次々に投げかけてくるなど、学びを深めてくれました。



# 国土強靱化

NATIONAL RESILIENCE

強くて、しなやかなニッポンへ

防災・減災、国土強靱化のための  
5か年加速化対策等の工事進捗状況

～吉野川水系吉野川～

## 吉野川水系における防災・減災、国土強靱化の緊急対策

吉野川水系を管轄する徳島河川国道事務所においては、時々の自然災害等の状況に即した機動的・弾力的な対応を行うための「頻発する風水害への対応」や「切迫する大規模地震等への対応」として「5か年加速化対策」等の工事を以下の地区で進めています。

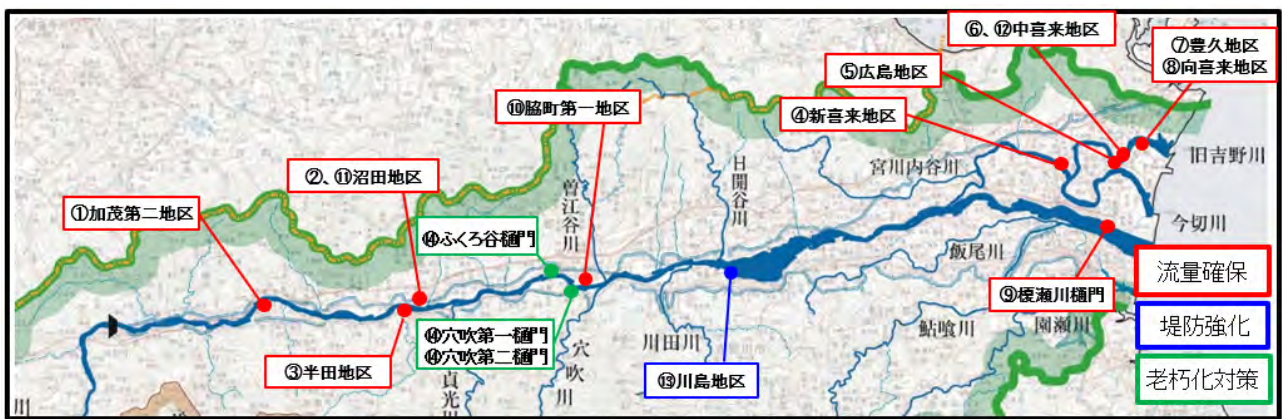


図1.吉野川水系における防災・減災、国土強靱化の緊急対策地区（※現時点で事業着手している箇所を表示）

### 事業目標及び状況（令和4年12月末時点）

#### ■流量確保（堤防整備、地震・津波対策、樋門新設・改築、河道掘削、樹木伐採）

- ①堤防整備
  - ・対策必要箇所22箇所のうち、令和7年度までに14箇所着手（予定）
  - ・10月末時点で7箇所着手し、現地調査、用地買収、築堤工事、樋門工事を実施中（この内、勝命箇所です工事完了）
- ②地震・津波対策
  - ・対策必要箇所4箇所（旧吉野川河口堰下流）において、2箇所（豊久地区、向喜来地区）で耐震対策工事を実施中
  - ・令和3年12月末で中瀬地区、令和4年1月末で矢倉地区が工事完了
- ③樋門新設・改築（耐震）
  - ・対策必要箇所5箇所のうち、令和7年度までに4箇所着手（予定）
  - ・10月末時点で1箇所着手し、榎瀬川樋門では仮設撤去工、築堤を実施中
- ④河道掘削
  - ・対策必要箇所10箇所のうち、令和7年度までに3箇所着手
  - ・10月末時点で3箇所着手し、沼田地区で河道掘削工事を実施中
  - ※掘削範囲の樹木伐採も含む

#### ■堤防強化（堤防拡幅、漏水・侵食対策、粘り強い堤防策）

- ①漏水対策
  - ・対策必要箇所2箇所（川島地区、西林地区）で漏水対策工事完了
- ②侵食対策
  - ・対策必要箇所5箇所のうち、令和7年度までに1箇所着手
  - ・10月末時点で1箇所着手済み

#### ■老朽化対策

- ①無動力化
  - ・新規実施箇所3樋門について、現在施工中  
（令和4年度新規箇所：穴吹第一樋門・穴吹第二樋門・ふくろ谷樋門）

## 吉野川水系における工事進捗状況



前ページで紹介した対象地区のうち、令和4年12月末時点での主な地区の進捗状況は以下の通りです。(丸数字の番号は、図1(前ページ)の番号に対応)

     流量確保   
      堤防強化   
      老朽化対策

### ●主な地区の施工状況(令和4年12月末時点)

No	地区名	所在地	整備内容	事業進捗
①	加茂第二地区	東みよし町	堤防整備	工事実施中(事業延長約4.6kmのうち約52%進捗)
④	新喜来地区	北島町	堤防整備	工事実施中(事業延長約0.8kmのうち約72%進捗)
⑧	向喜来地区	鳴門市、松茂町	地震・津波対策	工事実施中
⑨	榎瀬川樋門	徳島市	樋門改築	工事実施中(約93%進捗)
⑪	沼田地区	美馬市	河道掘削	工事実施中(全体掘削量約728千m <sup>3</sup> のうち約19%進捗)
⑭	樋門無動力化	三好市、美馬市	老朽化対策	工事実施中

#### ▶▶堤防が出来るまで



#### ▶▶地震・津波対策が出来るまで



### ▶堤防整備の進捗状況

①加茂第二地区：用地買収、築堤、樋門工事／約52%の進捗



着手前



R4.12月末時点

④新喜来地区：築堤／約72%の進捗

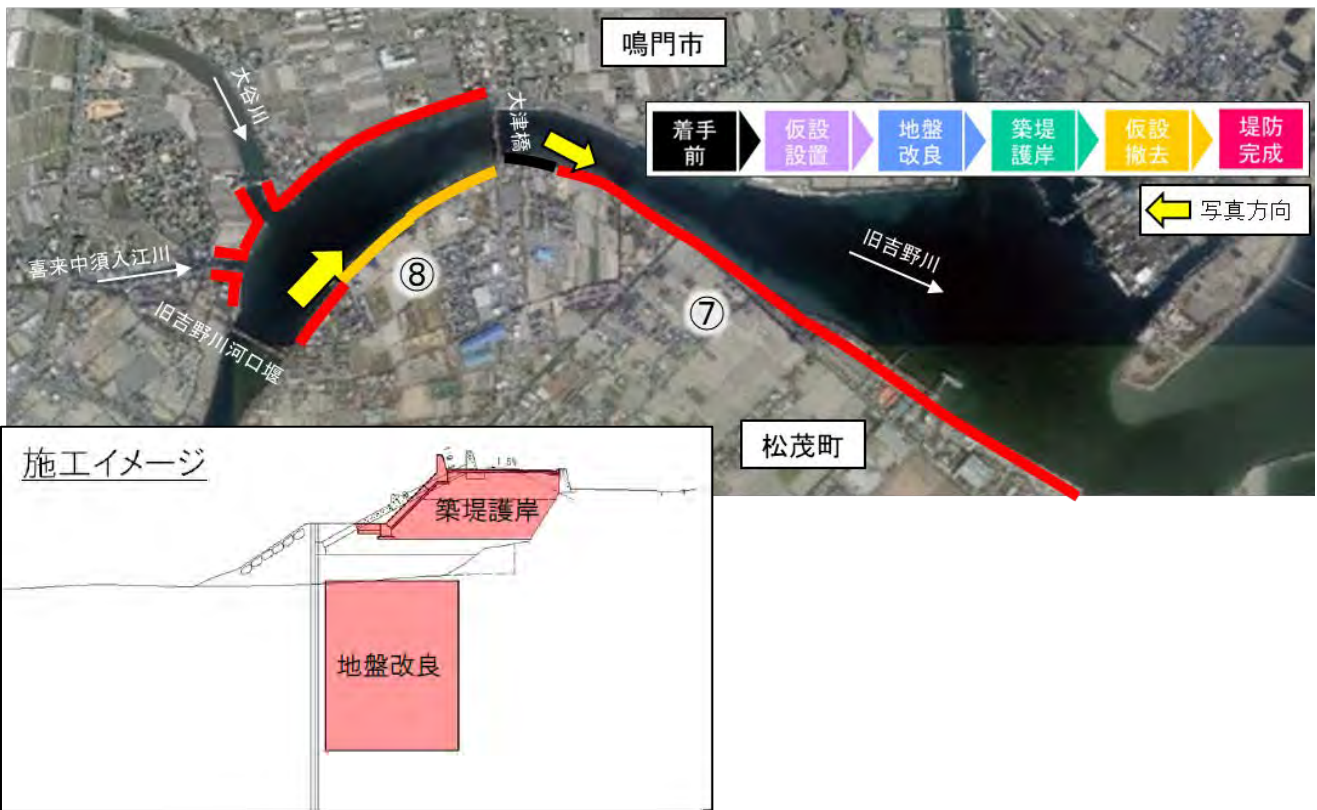


着手前



R4.12月末時点

▶地震・津波対策における各地区の施工状況



⑧向喜来地区：耐震対策工事／仮設撤去



着手前



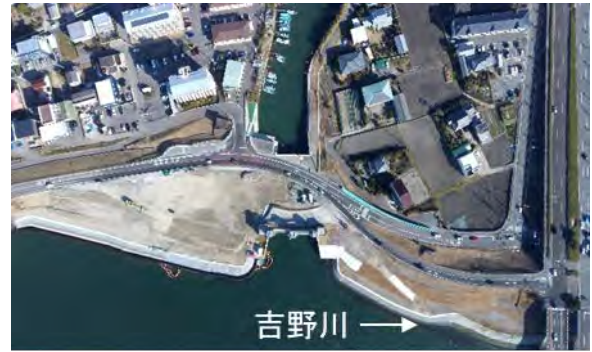
R4.12月末時点

▶樋門改築工事の進捗状況

⑨榎瀬川樋門：仮設撤去工、築堤／約93%の進捗



着手前



R4.12 月末時点

▶河道掘削工事の進捗状況

⑪沼田地区：河道掘削工事／約19%の進捗



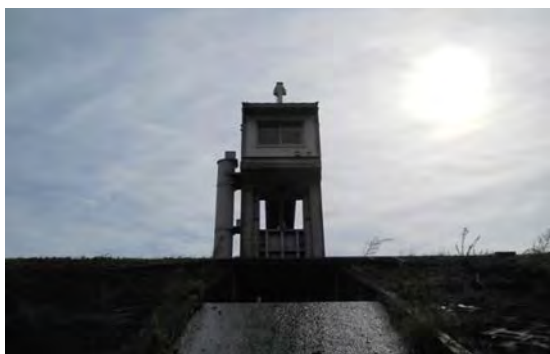
着手前



R4.12 月末時点

▶老朽化対策の進捗状況

⑭穴吹第二樋門：樋門の無動力化工事／工事实施中



着手前



R4.12 月末時点



「Our よしのがわ」では、今後も定期的に国土強靱化に関する吉野川水系の工事進捗状況を発信していく予定です。また、徳島河川国道事務所のウェブページでは、全箇所 の進捗状況を毎月更新しています。詳細はこちらでご覧いただくことができます。

徳島河川国道事務所ウェブページ

防災・減災国土強靱化のための5か年加速化対策等の工事進捗状況

<http://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/yoshinoriver/kokudokyoujinka/kokudo.html>



## 榎瀬川樋門改築事業（令和3-4年度 金岡堤防護岸外工事）を推進中

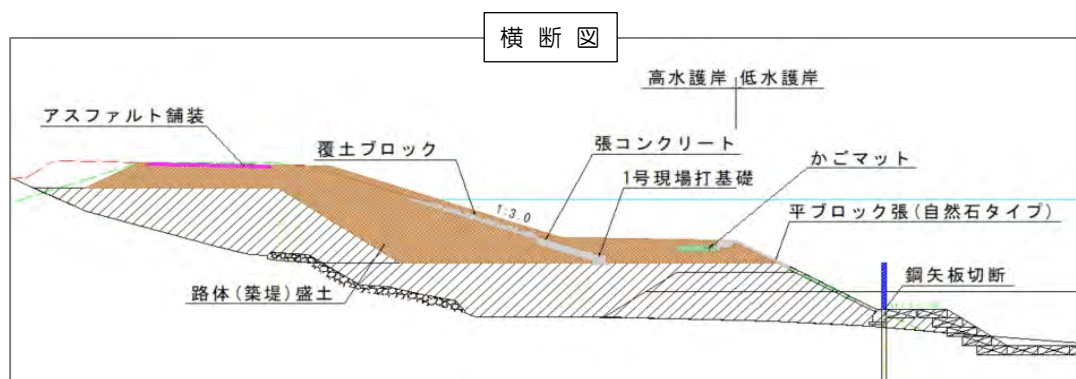
【吉野川上板出張所】

吉野川大橋（国道11号）上流の吉野川北岸堤防にある榎瀬川樋門は、平成25年度より地震・津波対策事業に着手しており、現在は、残工事の一部である樋門上流側の堤防護岸工事等を施工中です。榎瀬川樋門改築事業については、令和5年度内の完成を目指して工事を進めています。（樋門本体については本年度5月に完成済み。）

当現場の築堤工事については、ICT 建設機械を活用した生産性の向上（高効率・高精度）を図りながら工事を進めています。



この地図は、国土地理院の地理院地図に加筆したものです。





## 施工状況

① ICT盛土（敷均・転圧）



② ICT法面整形



③ 県道迂回路（夜間施工）



④ 広幅鋼矢板打設



⑤ 水中掘削



⑥ 平ブロック張（低水護岸部）



### <施工内容>

- 築堤護岸：L = 172m （盛土工 V=10,020m<sup>3</sup> 法面整形工 A=3,270m<sup>2</sup>）
- 県道迂回路：L = 245m （アスファルト舗装（表層） A=1,550m<sup>2</sup>）
- 仮設工（二重締切矢板撤去）：1式 （鋼矢板 VL型 426枚 鋼矢板 IVw型 32枚）

## Ourよしのがわ Vol.50 発刊記念特別企画 表紙で振り返る「Ourよしのがわ」結果発表！

Vol.50の発刊を記念して、令和4年9月～12月の期間、徳島河川国道事務所正面玄関で、これまで発刊してきた「Ourよしのがわ」の表紙の一覧を掲示し、好きな表紙をパソコンやスマートフォンから投票してもらう企画を実施しました。

投票いただいた皆さま、ありがとうございました。今回は、いよいよ結果を発表します！

当初はBest5を決める予定でしたが、1位、2位が同票で3つずつあったため、Best6の発表となります。



第1位

Vol.4、Vol.43、Vol.46

見た目のインパクトが大きな3つが1位に選ばれました！



Vol.4

これまでの表紙の中で唯一、写真がタイトルを突き抜けているインパクトのある一枚。

これにより重機の存在感が増しているのに加え、背景の見事な青空による相乗効果で、工事現場の写真を立派な表紙として成立させた、不朽の名作です！！



VOL.43

子どもが川にダイブする瞬間を見事にとらえた奇跡の一枚！

鼻をつまんだ表情から、水に顔を付けるのが本当は苦手だけど、頑張ってみようという少年の意気込みが感じられるようです。真夏の表紙にピッタリな写真で堂々の1位を獲得しました！





Vol.46

一面雪に覆われた真冬の岩津橋の風景。  
手前の「吉野川」と書かれた橋柱を見ると、  
雪が激しく降っている様子が伝わってきます。  
実はこの日、岩津から数キロほど東に行った  
あたりからは全く雪が降っていませんでした。  
岩津が「天気のかかれ目」と言われるのも頷け  
ます。

「Our よしのがわ」は徳島河川国道事務所の  
正面玄関ロビー等で配布しています。また、  
ウェブページでご覧いただけます。

徳島河川国道事務所

「Our よしのがわ」ウェブページ  
<http://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/kouhoushi/kouhoushi.html>



第2位

Vol.21、Vol.39、Vol.47

冬、初秋、春、それぞれの季節を感じることができる表紙がランクインしました。



いかがでしたか？今回の投票で初めて過去の表紙をご覧になった方もいるのではないのでしょうか？これを機に過去の「Our よしのがわ」に触れていただければ嬉しいです。また、これからも吉野川の様々な魅力を表紙でお伝えしていきたいと思ひます。

吉野川を遊び場にして楽しく過ごしている人たちによる、  
吉野川の遊び方をご紹介します！

## ～吉野川河口部で焚き火を囲んで、 チェアリングをしてみました。～

投稿：旧吉野川を愛するF

皆さん、チェアリングってご存じですか。

チェアリングとは、お気に入りの折りたたみ椅子を外に持ち出し、自分の気に入った場所を見つけ、自然の中で、お酒を飲んだり本を読んだり、各自それぞれがゆったり座って過ごすこと。最近、テレビや各種メディアでも取り上げられ注目されている過ごし方の一つです。

また、アウトドアがブームになっている中「焚き火」も注目されています。

そこで、吉野川河口の河川敷で焚き火を囲んでチェアリングをしてみました。

**参加者はアウトドア経験者と素人2人。**

夜の7：30頃にしらさぎ大橋上流の現地で集合。**近くに燃えるものがないこと**を確認し、焚き火シートを広げ、焚き火台をセット。さらに各自椅子を組み立て準備完了。薪に火を付け、チェアリングスタート。

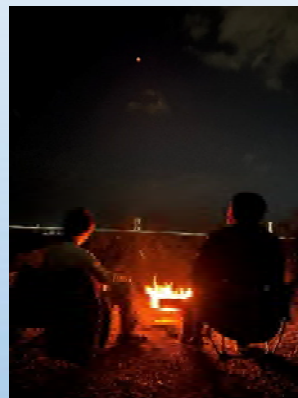
持ってきた缶ビールを飲みながら、趣味や仕事等様々なことを語り合い、あっという間に数時間が経ってしまいました。途中、乾いた流木を拾い薪に追加する等**河川の恵み**も感じることができました。

また、**星は綺麗に見え、暗闇に浮かぶ阿波しらさぎ大橋の眺めも美しく、近くにこれほどいい場所があることに驚きました。**

燃えやすいものがない場所選びを行った上での焚き火や、気軽にできるチェアリングはとて居心地が良くハマってしまいそうです。



焚き火台で燃える炎の様子



焚き火と月を見ながら語り合う参加者たち  
(当日は月食の日)



Fさんありがとビバ！ 月食と焚火とチェアリング。「これぞ大人が楽しむ吉野川」と言えるステキな過ごし方ビバ！アソビバーも憧れるビバ！！そして、燃えやすいものがない場所を選んで安全に実施してくれたことに感謝ビバ！もちろん、後始末やゴミの持ち帰りもしてくれたビバね！今度は旧吉野川での遊びを紹介して欲しいビバ！

「遊VIVA！吉野川」管理者：アソビバー



アソビバー

徳島河川国道事務所のTwitter投稿記事から、「Ourよしのがわ」のイベントだよりなどで掲載しきれなかった記事をご紹介します！



2023年1月13日

現在、徳島河川国道事務所正面玄関で「建設現場で働く人の魅力」写真展を開催しています。この取組は、建設業全体のイメージアップ推進を目的として2019年から実施し、現場の活気や楽しそうな雰囲気伝わってくる写真を毎回お届けしています。お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。



2022年12月22日

美馬市脇町にある#うだつの町並み でかんどり舟 にイルミネーション が設置されています。うだつの町並みの近くには吉野川 が流れ、昔は藍の集散地として栄えていました。阿波藍の発展を支えてきた舟運の面影と幻想的なイルミネーションが一度に楽しめるのは令和5年1月20日までです。



徳島河川国道事務所の Twitter では、所管する「国道11号、28号、32号、55号、55号バイパス、55号日和佐道路、192号、192号バイパス道路」や「吉野川・旧吉野川・今切川」に係る情報等を発信しています。



[https://twitter.com/mlit\\_tokushima](https://twitter.com/mlit_tokushima)

# 吉野川 Diary

～「コウノトリ・ツルでつながる阿波の国」こぼれ話～

## 若者が防災活動の担い手に。防災啓発活動に精力的に取り組む『津田新浜防災学習倶楽部』

Vol.50から本編の取材に協力してくれている戎井光来さんは、徳島市の『津田新浜防災学習倶楽部』の部長を務めています。学習倶楽部には現在、中学校3年生から20代半ばまでの若者約50名が所属し、防災啓発活動を行っています。

コロナ禍のため、ここ数年は活動を中断していましたが、昨年やっと活動を再開し、夏休みには地元のスーパーなどで防災意識についてのアンケートを実施しました。このアンケートは、コロナ禍前には毎年メンバーが手分けをして、約1千軒の家庭を訪問し行っていたもので、15年間継続していました。

アンケートの結果を見て、コロナ禍前に比べて住民の防災意識が低下したことを実感したメンバーは、アンケート結果を貼り出したり、防災イベントで発表したりするなど、防災に注目してもらえるような活動を積極的に行っています。

『地域の防災リーダーたれ』『継続は力なり』『ふるさとを好きになれ』という3つのスローガンを掲げる学習倶楽部では、一緒に防災に関する啓発活動をしてくれるメンバーを募集中です。防災に関心のある方なら県内外を問わず参加できるとの事ですので、興味のある方はお気軽にお問い合わせ下さい。



徳島ママ防災士の会が開催した『家族で防災スイッチ ON～みんなでできる防災・減災アクション～』で防災意識に関するアンケート結果を発表しました。(2022年10月1日)



2022年11月と12月に3回、夜間避難訓練が実施されました。11月5日には津田小学校で津波避難訓練が行われました。

写真提供：戎井光来さん  
メンバー応募等問合せは津田新浜防災学習倶楽部のInstagramから→



## 編集後記

新年あけましておめでとうございます！本年も吉野川の歴史やフレッシュな情報をお伝えし、吉野川の魅力を再発見できる紙面づくりに取り組み、うさぎ年らしく、さらなる躍進の年にしたいと思いますのでよろしくお願ひ致します。さて今回も盛沢山の情報が掲載されていますが、ひょうたん島クルーズ好きの私としては、「水都とくしま～ひょうたん島タクシー～」の定期航路の今後の展開も気になるところです。川から見る景色と爽やかな風が心地良いですよ(\*^\_^\*)機会があれば是非乗船してみてください♪(ふ)

[発刊]: 国土交通省四国地方整備局 徳島河川国道事務所

[編集]: Ourよしのがわ編集委員会

〒770-8554 徳島県徳島市上吉野町3-35

TEL(088)654-9175(直通)

FAX(088)654-9177

E-mail:skr-tokusa63@mlit.go.jp

ウェブページアドレス <http://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/>

(注記)QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。



## Ourよしのがわ 編集委員会

- ・白川 豪人
- ・藤本 雅信
- ・林 昌宏
- ・七條 稔暢
- ・安永 一夫
- ・大江 茂徳
- ・松本 幸一
- ・佐藤 英人
- ・藤井 和志